

第6章 都市^まづくり^ちの方針

～ほっとポイント構想～

ほっとポイント（コミュニティ交流拠点）は、明治以降の合併状況を踏まえて、現在の旧役場・郵便局・学校などの配置から設定しました。水と緑の自然環境や、寺社林・屋敷林などの農村特有の田園景観など、豊かな環境の中で利便性を提供し、コミュニティの中心となるところです。また、市街地と田園とのホットな交流を深めるポイントでもあり、地域のコミュニティの中でほっとする場所でもあります。

第6章 都市づくりの方針 ～ほっとポイント構想～

ほっとポイント（コミュニティ交流拠点）は、地域の中心となる拠点です。市街地と田園とのホットな交流を深めるポイントであり、地域のコミュニティの中でほっとする場所でもあります。旧役場・郵便局・学校などの配置から、各地域の拠点を位置づけました。

人の生活と川は深い関係があり、川のそばに集落が発生してきたのは歴史からも明らかです。本市においても、阿武隈川流域で国指定史跡の下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳が発掘されるなど、私たちの先祖が古くから河川の流域に住みついたことがうかがわれます。

そこで、ほっとポイント構想は、河川の流域ごとに整理し、流域毎の特性を活かした地域づくりの方向性を定めます。

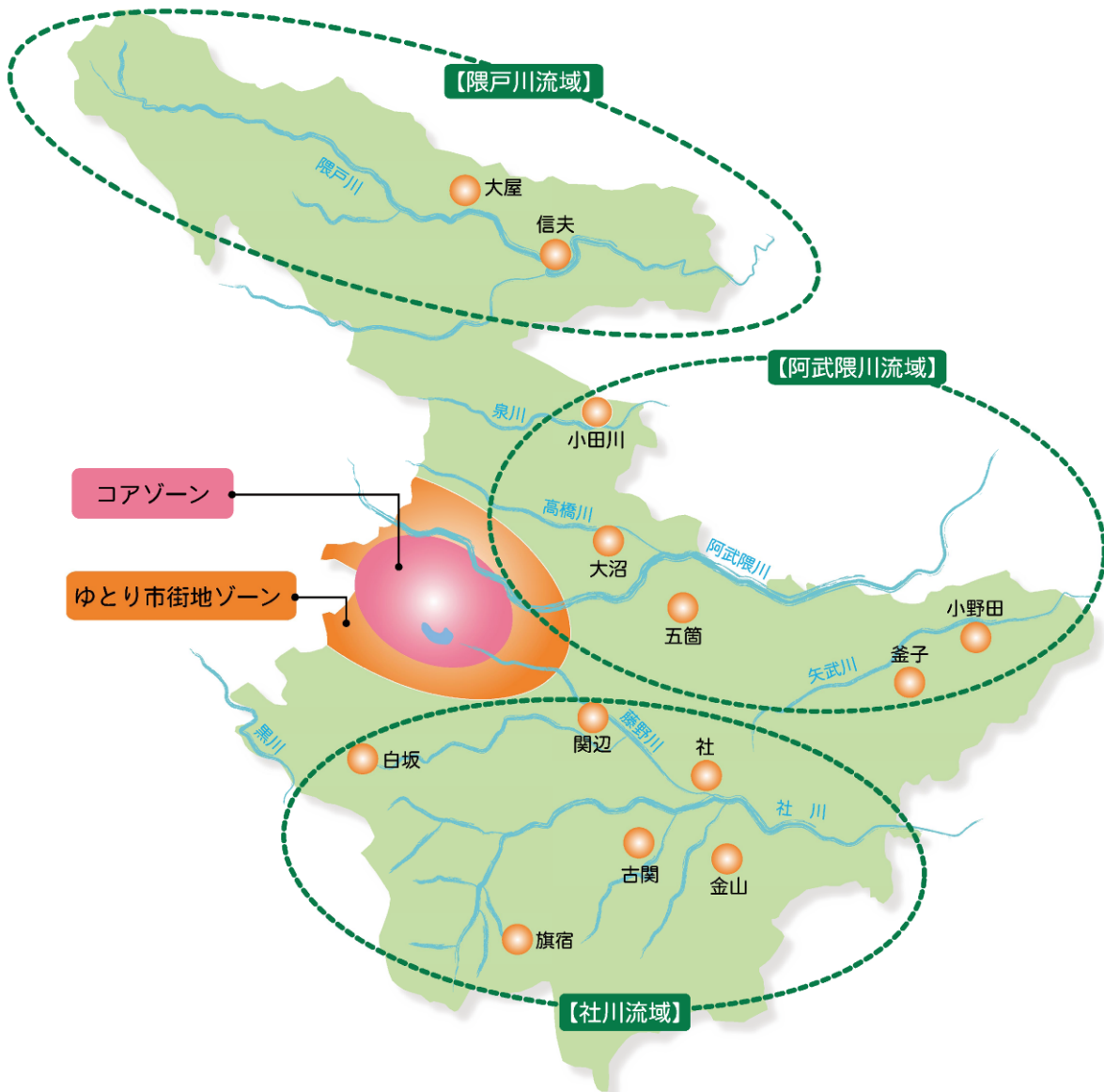
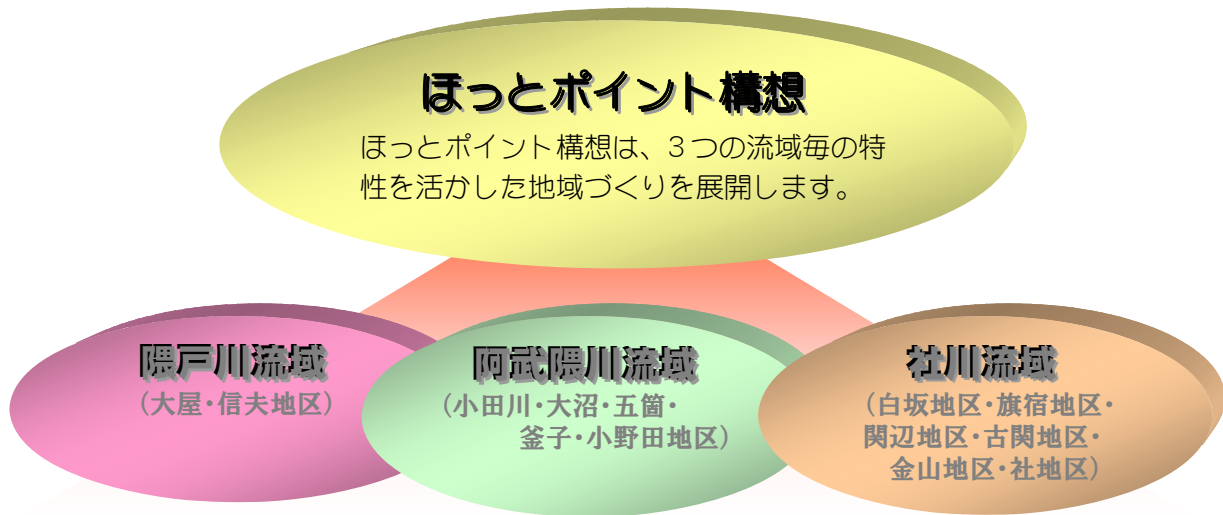


図 6-1 ゾーン区分図

1. ほっとポイント:地域づくりの方向性



(1) 地域の特性

隠戸川・阿武隈川・社川沿いには、豊かな田園風景が広がっており、周囲を丘陵に囲まれています。市街地や既存集落地は、主要な街道沿いなどに点在しており、昔ながらの風情を感じさせる風景を形成しています。昔からのコミュニティも良好に維持されています。

自家用車での移動が多いライフスタイルになっていましたが、本格的な高齢化社会を迎え、地域間の交流をさらに発展させるとともに、公共交通機関の充実などによる利便性の向上が望まれています。

(2) 地域づくりの方向性

昔ながらの情景を感じさせる景観や、田園景観を守っていくため、住民同士のルールづくりの促進や建物の立地規制などを検討していきます。

公民館や集会所については、地域のコミュニティづくりの拠点や防災拠点として位置づけ、生涯学習やボランティア活動、市民自治活動の場として、施設の充実と活動への支援を進めます。また、農業集落での担い手が不足しているため、農家民宿・農家レストランといった手法により、都市と田園の交流を促し、農地や周辺の自然を守っていきます。

- ・周辺の豊かな田園の保全と田園と調和した住環境の維持・保全
- ・ほっとポイント同士のネットワークづくり
- ・コミュニティの強化による安全・安心な地域づくり
- ・歴史的な風情を維持しつつ狭い道路を改善
- ・誰もが安心して歩けるユニバーサルデザインの歩行空間の確保
- ・白坂駅・久田野駅周辺の活用方策の検討
- ・河川の水辺環境の保全・活用
- ・遺跡を活かしたまちづくり

くまどがわ 2. 隈戸川流域(大屋・信夫地区)

(1) ほっとポイントの特性

市の北部を東西に流れる隈戸川の北側に、田園と集落が分布しています。隈戸川と並行する(主)矢吹・天栄線が地域の骨格を形成する道路となっています。大信庁舎や郵便局、幼稚園、保育園、中学校などが置かれる町屋は、国道294号と(主)矢吹・天栄線が交差する地にあり、多くの商店がありました。現在はその数は少なくなっています。

大屋地区は、隈戸川上流部に位置し、十日市・上小屋・下小屋(西宿・宮沢・日和田)などの集落があります。下小屋集落は、鎌倉時代の結城氏の拠点のひとつで宮沢の熊野神社や信仰の山・丹波楯山たんばたてやまなどが所在しており、旧大屋村庁舎が置かれた宮沢には現在でも小学校や郵便局などの施設が集まっています。上小屋集落は、江戸時代に会津と白河を結ぶ会津街道(白河街道)の宿場として人と物の往来でにぎわい、現在も宿場の風情があります。

信夫地区は、隈戸川下流部に位置し、町屋・増見・上新城・中新城・下新城・豊地などの集落が分布しています。町屋には樹齢約1000年と推定される二本カヤが所在し、由緒は明らかではありませんが、古代磐城・岩代いわぎ いわしろの国境にあたる位置に植えられたとの説もあります。中新城集落には城跡である新城館しんじょうぐんが所在し、戦国期の白河結城氏と須賀川二階堂氏の境界の地として軍事的に重要な地で、現在でも矢吹町方面との交流が盛んな地域です。



(2) ほっとポイントの方向性

大屋地区、信夫地区は、隈戸川沿いに集落が点在する、歴史的な風情を残した田園環境を有していることから、今後も都市的土地利用の抑制に努め、農業上の土地利用との適切な調整の下に、良好な居住環境の形成を図ります。また、隈戸川沿いに広がる田園は、山あいの特色ある風景をつくっていることから、地域にそぐわない建築物が立地しないよう、住民同士のルールづくりや立地規制を検討していきます。

3. 阿武隈川流域（小田川・大沼・五箇・釜子・小野田地区）

(1) ほっとポイントの特性

市の中央部を東西に流れる阿武隈川流域の周辺の地域です。

小田川地区は、阿武隈川の支流である高橋川や泉川流域の地区で、小田川・泉田・萱根・大谷地などの集落が分布しています。小田川や萱根は江戸時代に奥州街道の宿場町としてにぎわった地区で、現在でも国道4号や東北自動車道の沿線に位置しています。

大沼地区は、阿武隈川の支流である高橋川流域の地区で、久田野・本沼・大和田・大などの集落が分布しています。大地区鹿島には白河城下（中心市街地）の総鎮守である鹿嶋神社が所在し、神社の祭礼として約350年の歴史を持つ「白河提灯祭り」が執り行われています。また、大地区^{からめ}搦目と市街地に隣接して所在する県指定史跡白川城（^{からめじょう}搦目城）跡は、南北朝・室町期における中世白河結城氏の本城であり東北有数の山城として有名な史跡です。久田野・本沼地区には古墳時代の遺跡群が多数所在し、国指定史跡白河舟田・本沼遺跡群の谷地久保古墳、全国で5例目の発見となった^{じょうえんかぼつらん}上円下方墳の野地久保古墳などがあり、これらの遺跡を活かした地域づくりを行っていきます。久田野には東北本線久田野駅があり、この周辺を含む公共交通の結節点となっています。また、行政センター、小学校、郵便局などを中心として商店や住宅地が集まっているため、駅周辺において利便性の高いまちづくりを推進します。

五箇地区は、江戸時代の松平定信の頃の記録に「土地がよく肥え米穀をよく産し、白河郡一の味」と賞賛された肥沃な土地で、阿武隈川流域に双石・板橋・舟田・田島・借宿・入方・細倉などの集落が分布しています。舟田・借宿周辺は、古代白河郡の中心地で、国指定史跡白河舟田・本沼遺跡群の^{しもろさつ}下総塚古墳・^{ふなだなかみち}舟田中道遺跡、^{かりやどはいじあと}県指定史跡借宿廃寺跡など多くの飛鳥文化と関連の深い遺跡が集中し、大沼地区とあわせ「東北の飛鳥の里」といわれています。全国的にも注目される遺跡群としての整備が待たれます。（主）白河・石川線沿いの田島には行政センター・小学校・中学校・郵便局などの施設とともに商店があり、五箇地区の中心となっています。

釜子地区は、阿武隈川の支流である矢武川流域に釜子・深仁井田・形見・栃本・千田などの集落が分布しています。この地区を南北に縦断する（主）棚倉・矢吹線は地域の骨格を形成する道路となっています。東庁舎や郵便局・小中学校や商店などが立地する釜子は、江戸時代には水戸に通じる街道沿いの宿場町として、また^{かまのこじんや}釜子陣屋が置かれ武家屋敷などがあつた地区で、いまでもその風情を残しています。

小野田地区は、矢武川流域に上野出島・下野出島などの集落が分布しています。上野出島地区の満徳寺には樹齢約300年以上のしだれ桜、下野出島地区の石原にも樹齢300年以上の



しだれ桜があり、いずれも市の天然記念物に指定されています。浅川町に通じる県道沿いの下野出島坂口には小学校・郵便局などがあり小野田地区の中心となっています。

(2) ひとつポイントの方向性

小田川地区・五箇地区・釜子地区・小野田地区については、田園や里山にいだかれた集落、遺跡や天然記念物に囲まれた豊かな地域の特性を今後も守り続けていくため、農林部局との調整の下、農用地の保全に努めるとともに、市民自身が地域の歴史を学び、伝えていく機会を増やし、市民自らがそれぞれの特性に磨きをかけながら、守り育てていきます。また、飛鳥文化と関連の深い遺跡が多く残っているため、しもみさづか下総塚古墳・ひなだなかみち舟田中道遺跡、県指定史跡かりやどはいじあと借宿廃寺跡などの遺跡を活かした都市づくりを行っていきます。

大沼地区においては、県道沿いの田園地帯のなかにミニ開発が進みつつある地域であるため、農林部局との調整の下、無秩序に市街化が進まないように、適切な開発の規制・誘導を検討していきます。また、地域の特性にそぐわない建築物等が立地しないように、住民同士の景観ルールづくりや立地規制を検討していきます。また、五箇地区とあわせて「東北の飛鳥の里」といわれている特性を活かし、全国的にも珍しいじょうえんかほうじん上円下方墳の野地久保古墳とやじくほ谷地久保古墳などをあわせた遺跡を活かした都市づくりを行っていきます。

4. 社川流域(白坂・旗宿・関辺・古関・金山・社地区)

(1) ほっとポイントの特性

市の南部を東西に流れる社川流域の周辺の地域で、南側は栃木県境に接しています。

白坂地区は、市街地の南側に位置しており、栃木県と福島県境を流れる黒川と社川に挟まれた地域で、白坂・皮箆・三輪台・大倉矢見・下黒川・石阿弥陀などの集落があります。栃木県那須町に通じる国道 294 号が南北に縦断し、この地区の骨格を形成する道路となっており、東北本線白坂駅はこの周辺における公共交通の結節点となっています。また、郊外型住宅団地や工業団地なども立地しています。江戸時代、奥州街道沿いの境明神や、本陣・脇本陣が置かれた白坂宿は、多くの人々の往来でにぎわっていました。また、石阿弥陀周辺には奥大道(中世の官道)沿いに鎌倉時代の町屋集落(芳野遺跡)が発見されています。芳野遺跡からは、江戸初期の街道跡も発見されており、近くに一里塚も所在しています。



旗宿地区は、社川の源流部に位置し国指定史跡「白河関跡」が所在しています。関跡の前を通る旧関街道は、現在(主)伊王野・白河線となり、栃木県境へ通じる骨格的な道路となっています。また、沿道の集落には現在も宿場的景観が残されていることから、歴史的遺産を活かした地域づくりを行っていきます。

関辺地区は、市街地の東側に隣接し、東西に走る国道 289 号が地域の骨格を形成する道路となっています。この地区と番沢地区の間に位置する標高 619 メートルの関山は、本市のランドマーク的存在で、その山頂にある古刹・成就山満願寺は天平二年(730)に聖武天皇の勅願の寺として行基が開いたとされています。

古関地区は、旗宿地区の東側に位置し、社川流域に中野・内松・番沢などの集落が分布しています。番沢には室町時代の開創の由来を持つ、曹洞宗寺院である峰全院が所在しています。

金山地区は、社川流域の右岸に位置し、金山・梁森・高木・三森などの集落が分布し、東西に走る国道 289 号がこの地区の骨格を形成する道路となっています。金山の由来は、かつて黄金川の上流部に金鉱山があり、遣唐使派遣費用の黄金がこの地より産出されたことによります。また、三森に所在する建鉾山は、円錐形の山容で東日本でも最大級の古代祭祀遺跡として有名です。金山には表郷庁舎、小学校、医療機関などの公共施設のほか多くの商店が集積しています。

社地区は、社川の左岸に位置し、社川とその支流である藤野川が合流する地域で、小松・八幡・中寺・堀之内・河東田・深渡戸等の集落が分布しています。八幡には社八幡神社が所在し、八幡太郎義家が東北遠征にあたり戦勝を祈願してこの神社を建立したと伝えています。

(2) ほとポイントの方向性

白坂地区は、国道 294 号沿道に旧奥州街道の風情をのこす景観が多く残されており、那須連峰の山並みも眺望できることから、歴史や景観に配慮した地域づくりが望まれます。また、西部には工業団地や住宅団地など市街化している地区もあり、東北本線白坂駅は公共交通の拠点的作用が期待されることから、農林部局との調整の下、今後もバランスのとれた土地利用を図っていきます。

金山地区においては、商店などの商業集積がみられることから、今後も身近な買い物などの拠点として活用を図っていきます。また、地域の特性にそぐわない建築物等が立地しないように、住民同士のルールづくりなどを検討していきます。

旗宿地区は、白河関跡や白河関の森公園等を活用した、歴史・人々との交流拠点としての機能強化を進めていきます。

関辺地区・古関地区・社地区については、田園や里山にいだかれた集落、遺跡や天然記念物を活かした都市づくりを進めていくとともに、これらの豊かな地域特性を今後も守り続けていくため、市民自身が地域の歴史を学び、伝えていく機会を増やし、市民自らがそれぞれの特性に磨きをかけながら、守り育てていきます。